

2018年度

環境経営レポート



【対象期間】2018年5月～2019年4月

【発行年月日】2019年9月25日



認証番号 0004553

株式会社阿部製作所

目次

	ページ
1 環境経営方針	3
2 組織の概要	4
3 実施体制	5
4 環境経営目標及びその実績	6
4.1 次年度の環境経営目標(2019～2021年度)	7
5 環境経営活動計画の取組結果とその評価	8
5.1 環境活動風景	9
6 環境経営目標の達成状況及びその評価結果	10
7 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価並びに違反、訴訟等の有無	11
8 代表者による全体評価と見直し	11

1.環境経営方針

基本理念

(株)阿部製作所は、環境負荷低減に取り組む世界の製造企業に、金型及び部品を供給し、自社の生産においても環境に配慮した継続的改善を行うことで、顧客と共に、自然豊かな環境づくりに貢献する企業を目指します。

行動指針

1. 環境に関する法律を遵守します。
2. 省資源、省エネルギー、廃棄物削減に向け下記項目を重点テーマとし改善活動に取り組みます。
 - ① 電力使用量の削減
 - ② 化石燃料使用量の削減
 - ③ 廃棄物の削減及びリサイクルの推進
 - ④ 総排水量の削減
 - ⑤ 製造工程で使用する化学物質の管理
 - ⑥ 製品不良率の削減
3. この方針を全従業員へ周知すると共に、環境経営システムの継続的改善を図っていきます。

制定日 2019年9月9日

株式会社 阿部製作所
代表取締役 阿部 文三

2. 組織の概要

(1) 事業所名及び代表者名

株式会社 阿部製作所

(2) 所在地

本社 岩手県北上市北工業団地1番9号

関連会社 阿貝精密電子(蘇州)有限公司 蘇州市相城区東橋鎮潘陽工業園B2-4

(3) 環境管理責任者連絡先

高橋こずえ

TEL 0197-66-3121

FAX 0197-66-3122

(4) 事業活動の内容

半導体製造装置用プレス金型・モールド金型設計製作 機械部品・治工具設計製作

(5) 事業活動規模

2018年年度 4月決算

売上高 3億4千万円

従業員数 41名

建屋面積 3811㎡

(6) 認証登録範囲

全社・全組織・全事業活動

(7) 社歴

昭和36年9月 個人会社阿部製作所創業

昭和48年6月 法人化改組「株式会社 阿部製作所」となる

昭和63年3月 北上工場建設開始 岩手東芝エレクトロニクス(株)様の協力工場となり

半導体後工程委託加工開始

平成元年2月 北上工場完成 花巻より北上市へ新築移転

金型工場金型製造部門稼働開始

平成12年12月 ISO9001認証取得

平成15年7月 中国 阿貝精密電子(蘇州)有限公司 稼働開始

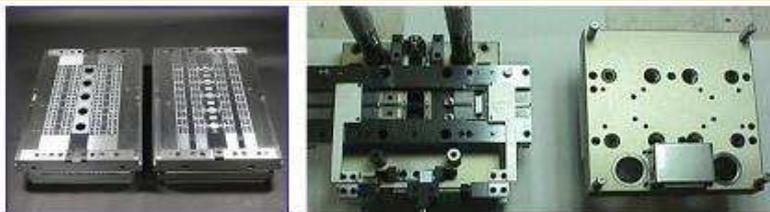
平成20年12月 ISO9001/2008年度版へ移行

平成22年1月 エコアクション21認証・登録

平成28年10月 岩手県職業能力開発協会 技能検定促進功労賞 受賞

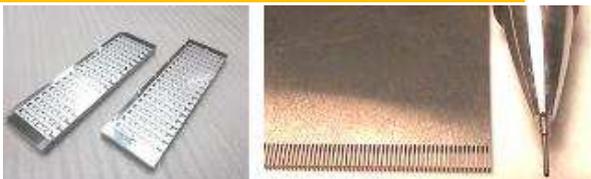
平成29年12月 ISO9001/2015年度版へ移行

■ 精密モールド金型・精密プレス金型事業



千分の一ミリの精度を必要とする半導体・電子部品等の組立工程で用いる金型を、設計～部品製作～組立・試打調整 まで一貫して行っております。

■ 精密加工部品事業



金型の使用により摩耗した消耗部品、生産品種切り替えによる交換部品、その他特に厳しい精度の要求される単品部品等、部品単位での設計・製作・修理等にも対応しております。

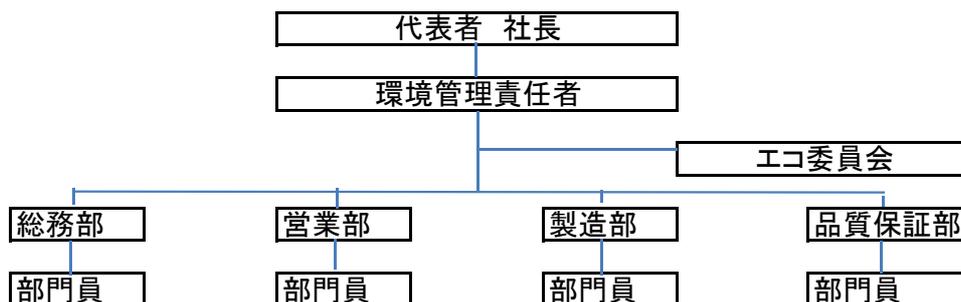
■ 装置部品事業



各種装置を構成する機械加工部品・治工具等について多品種少量にて1個から、ピンセットで掴む超小物からクレーンで運搬する大物まで各種柔軟に対応しております。

3.実施体制図

1組織



2.役割

代表者	環境管理責任者を任命する 環境管理責任者からの報告を受け全体の見直しを行う 取組に対する資源を用意する 環境経営方針を定め誓約し取組の基本的方向を全従業員に周知する
環境管理責任者	代表者に代わってシステムを構築し運用する 環境経営目標・活動の実施状況を定期的に確認する 代表者に結果を報告する
部門責任者	省資源、省エネ、節水を奨励・実施する 従業員に教育訓練を実施する
エコ委員会	環境経営目標・省資源、省エネ、節水等に関する活動案を作成し実行する 教育訓練の計画案及び実施をする 部門責任者とともに目標達成の取組を推進・チェックする 環境管理責任者の補佐をする
全社員	部門責任者のもと省資源、省エネ、節水に努める 決められたことを守り環境活動へ積極的に参加する

4. 環境経営目標及びその実績

項目	基準年 (2015年度)	2016年度		2017年度		新基準値 (2016・2017年)	2018年度		
		目標(0.25%)	実績	目標(0.50%)	実績		目標(0.25%)	実績	
電力の二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	962,080	959,675	533,176	957,270	526,794	529,985	528,660	502,847
ガソリン・軽油の二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	14,523	14,487	13,580	14,450	12,705	13,143	13,110	11,556
灯油・LPGの二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	5,672	5,658	5,261	5,644	6,545	5,903	5,888	6,327
産業廃棄物排出量の削減	t	17.00	16.96	2.48	16.92	3.38	2.93	2.92	3.87
一般廃棄物排出量の削減	t	3.20	3.19	1.10	3.18	2.44	1.77	1.77	0.95
総排水量の削減(節水)	m ³	1,078	1,075	773	1,073	434	604	602	453
製品不良率の削減(不良個数/検査個数)	%	1.45	0.65	0.41	0.65	1.18	0.65	0.65	0.72

※基準値は、昨年度までは2015年度の実績を使用していましたが、半導体組立事業が完全に終息し、環境負荷の量が激減したため、今年度は2016年度と2017年度の二年間の実績をもとに、基準値の見直しを実施しました。(2018年度のみに対する基準値の見直し)

※目標は基準年から毎年0.25%ずつ削減(但し不良率のみ品質目標に準じて一律0.65%以下)

※二酸化炭素排出係数は環境省(2015年)の東北電力実排出係数 0.559kg-CO₂/kwhを使用

4.1 次年度の環境経営目標(2019～2021年度)

項目	基準値	2019年度目標	2020年度目標	2021年度目標	
電力の二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	492,050	492,050以下	492,050以下	
ガソリン・軽油の二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	12,614	12,614以下	12,614以下	
灯油・LPGの二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	6,044	6,044以下	6,044以下	
産業廃棄物排出量の削減	t	廃棄物の適正管理(分別、処分、再資源化)を継続 廃棄物排出量の数値をモニタリング			
一般廃棄物排出量の削減	t				
総排水量の削減(節水)	m ³	節水の呼掛けなど活動を継続			
製品不良率の削減(不良個数/検査個数)	%	0.65	0.65以下	0.65以下	0.65以下

※二酸化炭素排出係数は環境省(2018年)の東北電力実排出係数 0.528kg-CO₂/kwhを使用

中期目標の設定

弊社、二酸化炭素排出量の大半(9割)は電力使用量が主な環境負荷となっています。2016年～2018年度3年間の電力使用量を見ると増減の割合は6%程でした。それ以前は半導体組立事業の生産量に応じて変動していましたが、金型・装置部品加工事業一本となってからは変動も小さく、概ね必要最小限の電力使用量で推移しています。その状況を踏まえ、電力の二酸化炭素排出量削減の中期目標は、2016年～2018年の3年間の平均値以下を維持出来るよう、電力消費を抑制する活動を継続し行う事とします。

化石燃料については使用割合が少量であり、今後たとえば事業の変化による社用車の利用率変化やエコカー化、社屋内の空調機や厨房機器の入替など無い限り、大きな変動は無い状況の為、電力同様3年間の平均値以下を維持出来るよう活動を行っていきます。

廃棄物は、主に工作機械で使用する潤滑オイルの廃油や研磨汚泥、鉄材の購入や運搬で発生する木製パレット、容器や分解で発生する廃プラなどに限られてきました。それらは工作機械のメンテナンス頻度、加工する製品の種類や数量に左右される為、排出量の数値は引続き管理するものの、数値目標は取りやめ、廃棄物の適正な処分と分別の活動を継続的に行うことを目標に致します。

総排水量の削減(節水)は、節水の活動を通して排水量(使用量)の変動は少なくなってきました。また水はトイレ・手荒場、厨房のみで使用している生活用水であるため数値目標はやめ、節水や蛇口など水回りの水漏れ点検を継続し行うことを目標と致します。

製品不良率の削減は、不具合による修正加工や作り直しによって伴う資源の消費および各作業でのロスコストが、経営にも環境にも影響が大きく、引き続き社内品質目標に準じ0.65%以下を目標値として活動致します。

5.環境経営活動計画の取組結果とその評価

○:できた △:あまりできなかった ×:全くできなかった

取組計画	結果	評価
電力の二酸化炭素排出量の削減		
照明器具の未使用室の消灯および、間引き照明の実施	○	計画的によくできている
照明器具の定期掃除実施	△	高所の照明の掃除は困難なため検討する
休憩時の消灯	○	よくできている 引き続き徹底していく
工場内のエアコンフィルター清掃	○	計画的によくできている
ガソリン・軽油の二酸化炭素排出量の削減		
エコ運転の教育・周知	○	構内制限速度の表示を行い、安全やエコ運転の呼び掛け等よくできていた
灯油・LPGの二酸化炭素排出量の削減		
退室時にスイッチ確認	○	灯油を使用する食堂の暖房機器は、使用後のスイッチ切り忘れなく、よく管理できていた
産業廃棄物排出量の削減		
廃棄物の適正な分別と処分	○	金属くずの再資源化のための分解や分別、廃プラ・廃油・研磨汚泥の処分など継続してよく管理できている
廃棄物処理場の視察	×	今年度は視察できなかった。次年度は10月に廃油・廃プラの処理場訪問を予定しているので、しっかり視察していきたい
一般廃棄物排出量の削減		
社内ネットワーク等により紙の使用削減	○	よくできている
ごみ分別の徹底	○	よくできている
総排水量の削減		
使用時の節水実施	○	節水の呼びかけ、ポスター掲示など取組がよくできている
製品不良率の削減		
社内異常連絡書での原因・対策・処置の実施	△	工程によっては、真の原因の追究不足や対策の定着があまりないなど、まだまだ改善点はあるので、より一層再発防止のに向けた意識を高めていくように取り組んでいきたい
品質会議でのフィードバック	○	毎月の品質会議で、問題点と対策の再確認はよくできている
その他		
フロン排出抑制法の簡易自主点検の実施	△	異常箇所の処置(屋外器の銅管保温材カバー交換)を順次おこなっていく
薬品・オイル類の管理	△	工場内の設備配置換えによって、保管場所が変わったので掲示物の張替えや保護具や備品の整頓を行う
コンプレッサー室の温度管理	○	コンプレッサーの安定稼働温度0~40℃を保つため、まずは間仕切りのカーテンを設置した(冬季の対策)

5.1 環境活動風景

構内に「制限速度、徐行、一時停止」表示を設置し、より一層の安全運転エコドライブに取り組んでいます。



節水の呼びかけの掲示物を新しく貼り換えました。



冬場のコンプレッサー室温度管理対策として間仕切りのカーテンと通気窓にサッシを設置しました。



敷地内の草刈や、ここ数年の害虫被害等で生育の思わしくなかった桜の剪定前調査を行いました



6.環境経営目標の達成状況およびその評価結果

	新基準値 (2016・2017年)	2018年度		達成率(%)	
		目標(0.25%)	実績		
電力の二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	529,985	528,660	502,847	105
ガソリン・軽油の二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	13,143	13,110	11,556	112
灯油・LPGの二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	5,903	5,888	6,327	93
産業廃棄物排出量の削減	t	2.93	2.92	3.87	68
一般廃棄物排出量の削減	t	1.77	1.77	0.95	146
総排水量の削減(節水)	m ³	604	602	453	125
製品不良率の削減(不良個数/検査個数)	%	0.65	0.65	0.72	89

■環境管理責任者による全体評価

休み時間や各部屋の使用状況において、照明機器やエアコン等の省エネが定着しています。今後も意識しながら継続的改善に努めて参ります。
 毎月の安全衛生環境委員会の活動においても、電力使用量と水使用量のデータを取りながらムダを省く姿勢がみられます。夏場の猛暑でエアコンの使用が頻繁にあります。体調を崩さないよう、できる範囲で節約がされていると感じます。エコ運転や安全運転等についても、掲示物などで社内全体で啓発し良い傾向と思えます。

産業廃棄物の実績は、一時的に倉庫の整理を行ったことにより増加しました。

製品不良率の削減ですが目標には達しなかったものの、昨年度に比べ約4割ほど不良発生率は下がってきています。私たちが得意とする半導体用の精密金型部品以外にも、様々な業種の部品加工にチャレンジしている中で、確認ミスや失敗もあると思えますが、原因の追究をしっかりおこない再発させないよう取組んでいきたいと思えます。

また次年度は環境活動を5Sや現場改善の視点で融合させ、備品や工具の購入量を管理することで資源の削減に繋げる等の、活動も計画していきたいと思えます。

7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価並びに違反、訴訟等の有無

当社が法的義務を受ける環境基本法など、環境関連法規のついて遵守状況をチェックしたところ違反はありませんでした。

また、過去3年間、関係当局からの違反等の指摘、住民からの苦情、訴訟等について、問題はありませんでした。

8.代表者による全体評価と見直し

項目	評価	改善および指示
環境経営方針	右記のためなし	2017年度版に合わせ「経営における課題とチャンスの明確化」を行い、環境経営方針を見直した。
環境経営目標	前年の改善指示のとおり、事業構造の変動に合った適正な目標設定となっている。	目標設定は適正だが、実績値の把握において非経営的の事由により発生するもの(倉庫の整理による廃棄物等)を区別出来ないか検討すること。
環境活動計画 および 環境経営システム	月1の安全衛生環境会議及び品質会議の中で、省エネや職場改善・ムダ排除などの議論が活発に行われていると感じる。	北上工場操業32年目で、機械だけでなく建物付属設備の老朽化が著しい。特に空調設備関係は無理のない範囲で省エネ型の設備に転換していく計画が必要となる。

全体評価

明らかに地球温暖化による気候変動が原因と思われる自然災害が増えており、環境に対する意識向上が企業の社会的責任となっている中、事業の方向性が時代の流れに沿うよう、試行錯誤も含め、よく努力していると評価する。

我々の製造する金型は、製品を量産するための最もエネルギー効率の良い道具であり、その中でも車載半導体向けは、エコカー推進の根本となるため、環境負荷の低減に大きく貢献していることに大きな誇りを持って、足元の小さな実行を積み重ねていきたいと思えます。

以上